

## 〔 編集後記 〕

第91巻第3号では症例報告4編，話題1編，学会3編，そしてOpen access paperとしてCase report 1編が掲載されています。症例報告はどれも貴重な症例で，興味深く拝読しました。貴重な症例を経験した際に，後の医学の発展へ繋げるために論文として残し広く知らしめることは医師の責務であるとかつて指導されたことを思い出しています。

天海先生は，食道癌術後拳上結腸壊死に対し有茎空腸を用いて再々建を行った症例を報告しています。胸部食道癌手術において，本症例のような胃癌合併症例では胃管再建ではなく結腸再建を一般的に行うものの，結腸再建では縫合不全など合併症が高頻度に認められるとのことで，本報告も拳上結腸の壊死を合併しています。拳上空腸の血流を確保するために有茎空腸再建に血管吻合を付加して再々建していますが，良好な血流が確保され，有用な方法と思われたとの報告です。松崎先生は，希少な乳癌症例の報告をしています。乳癌で特殊型に分類される基質産生癌は，軟骨基質または骨基質の産生が特徴の化生癌の一種であり，非常に頻度の低い癌とのこと。本症例は管状癌を伴った基質産生癌で，本邦でそのような記載の報告例は無いとのことです。豊住先生が報告した原発性虫垂癌は，消化管悪性腫瘍全体の0.2～1%ということですから極端に稀な疾患ではありませんが，結腸への壁外浸潤を伴う原発性虫垂癌は非常に稀で，本報告では結腸右半切除術・リンパ節郭清（D3）を施行しています。それぞれ，再建方法，化学療法の指針，郭清の方針など一定の見解がない希少な症例ですが，長期経過観察や症例の蓄積などを通し，是非今後の指針提案につながる

ることを願います。

佐塚先生は直腸のリンパ上皮腫様癌を報告しています。腫瘍細胞でEBER-ISH陽性，ないしは周囲に浸潤したリンパ球でEBER-ISH陽性であることが多く，腫瘍発生の詳細な機序は不明のようですがEBウイルス感染の関与が指摘されているとのことです。EBウイルスは咽頭，胃などさまざまな部位で発癌に関与することが知られ，予後など他の癌とは特徴を異にする症例群を形成する病因ですし，非常に興味深く読みました。

鈴木先生は脊椎カリエスに伴う高度脊柱変形に対し，pedicle subtraction osteotomyによる矯正手術治療を行った症例をOpen access paperとして報告しています。生理的な自然経過による変形とは異なり，通常の固定術・陰圧術では十分な矯正は難しく，骨切り矯正固定術を併用し，ADL，QOLの著明な改善をもたらしています。本号の症例報告はいずれも外科領域からの報告によるものでしたが，手術という医療手段の重要性をあらためて考える良い機会となりました。

森先生からは，昨年の第二回，第三回日独シンポジウムの様子を報告していただいています。千葉大学グローバル化拠点形成として，本学のヨーロッパ拠点となるベルリンキャンパスを整備する構想に心を熱くする思いです。予防医学センターが平成25年度から進めて来たヨーロッパへの国際展開活動にこれまで延べ100名以上が参加しているとのことで，本学のグローバル化を進める基盤が着々と進んでいる様子が伝わって来ます。

今後も貴重な症例や報告を千葉医学雑誌を通して発信していただければと思います。

（編集委員 金田篤志）